

令和元年6月7日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K01999

研究課題名(和文) 1950年代から70年代のニューヨーク文化における仏教思想の影響

研究課題名(英文) Buddhism in American Culture; Its Influence on Music, Film, and Performance Art, 1950-1979

研究代表者

大和田 俊之(OHWADA, Toshiyuki)

慶應義塾大学・法学部(日吉)・教授

研究者番号：20365539

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：1950年代から70年代にかけての音楽(ジャズ、実験音楽など)、前衛映画、パフォーマンスアートなどを横断するアメリカ文化における東洋思想や日本文化の影響などについて研究を進め、国際学会4回を含む学会発表を6回行い、書籍化を念頭に置いた学術論文の連載を筑摩書房のウェブサイトにて続けている。また共著を含む関連書を4冊刊行した。さらに1974年にチベット仏教思想に基づいて設立されたコロラド州デンバーのナロパ大学を訪れ、当地で資料収集を行うと同時に、ジョン・ケージやアレン・ギンズバーグなどの文化人がプログラム運営に関わる経緯などについて学長にインタビューを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、アメリカ国内におけるアジア系の人口が増加していることもあり(増加率でいうと、ヒスパニックを抜いて現在一位である)、さまざまな文化的領域においてアジア系の活躍が以前に比べて目立っている。2018年の映画「クレイジー・リッチ」の流行や、KPOPグループ、BTSなどのアメリカでの活躍はその一端である。こうした時代背景のもと、20世紀半ばのアメリカ文化における東洋思想(その最も重要な人物は日本人、鈴木大拙であった)や日本文化の影響を解明することは、両国の文化交流の歴史を振り返り、再構成する意味でも非常に意義があることだと考える。

研究成果の概要(英文)：The research topic was on the Buddhist influence on American music, avant-garde film and performance art from 1950 to 1979. I have delivered six presentations on this topic during three years of research, three times in the US and once in Germany. I have also wrote a series of academic essays on the website of a major Japanese publishing company, which will be published as a book when the serial ends. I have also visited Naropa University in Boulder, Colorado, where a Tibetan Buddhist priest founded the institution in 1974. Many cultural figures--John Cage and Allen Ginsburg, etc-- were involved in the program, and I had the opportunity to interview the president and talk about how the institution and the programs were founded.

研究分野：アメリカ文化

キーワード：ジョン・ケージ ハリー・スミス ジョナス・メカス 鈴木大拙 アレン・ギンズバーグ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

音楽文化研究を始めた 2000 年代初頭に、『アンソロジー・オブ・アメリカン・フォーク・ミュージック』(1952) という LP6 枚組のコンピレーション・アルバムを編纂したハリー・スミスという人物に関心を持った。このアンソロジーはボブ・ディランなどにも大きな影響を及ぼし、ニューヨークのフォーク・リヴァイバルの直接的なきっかけになった作品だと言えるが、ハリー・スミスがかかわったニューヨークのアンダーグラウンドカルチャーに東洋思想、とりわけ鈴木大拙などを経由した禅思想の影響が大きいことに気づいた。コロンビア大学などでも教鞭を執っていた鈴木大拙の思想には、ジョン・ケージやアレン・ギンズバーグなども大きな影響を受けており、前衛映画や音楽、それにパフォーマンスなど分野を横断した領域における東洋思想の浸透に関心を持った。もともと大学院でアメリカ文学研究を修めていたころに、1950 年代のビート文学における仏教思想の影響などについては研究書を読んでいたものの、こうした流れが文学にとどまらない、より広範な文化的現象であることに気づいたことが研究に着手する経緯である。

2. 研究の目的

1950 年代から 70 年代のニューヨークを中心とするカルチャーの中で、とくに音楽や映像、パフォーマンスの領域における仏教思想の影響について考察する。この時代のニューヨークにはグリニッジ・ヴィレッジのフォーク・リヴァイヴァル、イーストサイドを拠点とするモダン・ジャズやフリー・ジャズ、さらにジョン・ケージの影響下に活動していたフルクサスや、ジョナス・メカスを中心とする前衛映画の文化が花開いていた。これらの文化の担い手たちは、それぞれの方法で鈴木大拙などの仏教思想、禅の思想に影響を受けていたことを公言しているが、それはどのように表現に結びついていたのだろうか。こうした点を解明することで、これまで主として文学の領域に偏りがちな研究(ビート文学と禅思想など)の方向性を広げ、アメリカ文化における東洋思想の影響を学際的に検討するだけでなく、20 世紀半ばの環太平洋的な文化交渉を明らかにしたい。

3. 研究の方法

1950 年代から 70 年代のニューヨークを中心とするカルチャーにおいて、仏教思想・禅思想がどのように影響したかを考察するために、関連施設に資料収集を行い、関係者へのインタビューを試みる。当初は、ニューヨークやサンフランシスコの寺院を訪れ、そうした施設が建立される経緯やそれがカルチャーの分野にどのような経路で広まっていったかについてインタビューする予定であったが、それは実現することができなかった。

4. 研究成果

20 世紀半ばのアメリカ文化への仏教思想の影響という意味で非常に重要なのは、1974 年にチベット仏教の思想のもとコロラド州ボルダーに設立されたナロパ大学である。研究二年目にこの大学を訪れ、資料収集だけでなく、チャールズ・リーフ学長にインタビューを試みたことはアメリカ文化における仏教の流入を考える上で非常に有意義だった。ナロパ大学開講にいたる経緯や、ジョン・ケージやアレン・ギンズバーグなどの文化人や芸術家がプログラム作成にか

かわったことなどについてもお話いただいた。論文ほどの長さではないものの、『キネマ旬報』と『ミュージック・マガジン』にそれぞれマイルス・デイヴィスとジョージ・クリントンに関するサイケデリック・カルチャー、仏教文化に関する影響を論じた文章を寄稿した。

研究を進めるうちに、仏教思想に限らず、アメリカの音楽文化における日本やアジアの表象だけでなく、日本の音楽文化のアメリカでの受容という側面に徐々に関心が移り、ヒップホップミュージックにおけるアフロ＝アジア的な要素の考察や、日本のシティポップの海外での再評価について研究を進めることになった。とはいえ、ジョン・ケージやフルクサス、さらにはジョナス・メカスを中心とするニューヨークの前衛映画運動、そしてそのすべてにかかわり、研究のきっかけとなった収集家、前衛映画家ハリー・スミスに関する研究は進めており、近いうちに書籍化し、まとまったかたちで世に問いたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

大和田俊之「ジョージ・クリントン・インタビュー アフロ＝サイケデリア Pファンクと人種混淆」『ミュージック・マガジン』49巻2号(2017年2月号)、50-55頁。査読無し。

大和田俊之「映画とジャズの1959年 「アメリカの影」とモード・ジャズという革命」『キネマ旬報』2016年12月下旬号、1735号、46-47頁。査読無し。

〔学会発表〕(計6件)

Toshiyuki Ohwada, “Urban and Exotic: The Advent of ‘New Music’ in Japan,” 2019 Annual Meeting, Association for Asian Studies, Sheraton Downtown Denver Hotel, Denver, Colorado, March 22, 2019.

Toshiyuki Ohwada, “Afro-Asian Futurism: YMO and Game Music,” 62nd Annual Meeting, The Society for Ethnomusicology, Denver, Colorado, October 28, 2017.

Toshiyuki Ohwada, “Yellow Magic Orchestra and Afro-Japanese Futurism,” 19th Biennial Conference of the International Association for the Study of Popular Music, University of Kassel, Kassel, Germany, June 25, 2017.

大和田俊之「ヒップホップとアフロ＝アジア」部会D「ヒップホップにおける人種の混淆」第51回アメリカ学会年次大会、2017年6月3日、早稲田大学早稲田キャンパス

「初期電気録音時代の世界音楽地政学：Michael Denning, *Noise Uprising* の批判的読解を通じて」(輪島裕介、大和田俊之 [討論者]、高橋聡太、葛西周) 第28回日本ポピュラー音楽学会年次大会、2016年12月4日(日)、於・立教大学。

Toshiyuki Ohwada, “Anthropology and the Avant-garde: Anthology of American Folk Music Reconsidered” Annual Conference of the International Association for the Study of Popular Music Canada and US, University of Calgary, Calgary, Canada, May 29, 2016.

〔図書〕(計4件)

長谷川町蔵、大和田俊之『文化系のためのヒップホップ入門2』アルテスパブリッシング、2018年、280頁。

栗原裕一郎編著、大谷能生、藤井勉、大和田俊之、鈴木淳史『村上春樹の100曲』立東舎、2018年、105-147頁。

大和田俊之、磯部涼、吉田雅史『ラップは何を映しているのか 「日本語ラップ」から「トランプ後の世界」まで』毎日新聞出版、2017年、238頁。

大和田俊之「「善き隣人」のリズム—ラルフ・ピアとラテン音楽、1933-1945」下河辺美知子編『モンロー・ドクトリンの半球分割—トランスナショナル時代の地政学』彩流社、2016年、127-145頁。

〔その他〕

筑摩書房のウェブサイト、Webちくまにおいて、連載終了後に書籍化予定の「アメリカ音楽の新しい地図 トランプ後の文化=政治」を学術論文のスタイルで執筆(各回12000字程度)。

大和田俊之「チャンス・ザ・ラッパーとシカゴの政治/文化」2018年6月15日

<http://www.webchikuma.jp/articles/-/1366>

大和田俊之「ラナ・デル・レイとフェイクの美学」、2017年12月27日、

<http://www.webchikuma.jp/articles/-/1157>

大和田俊之「音楽メディアとランキング・システム」、2017年9月15日、

<http://www.webchikuma.jp/articles/-/1021>

大和田俊之「ヒップホップにおけるアフロ=アジア」、2017年7月28日、

<http://www.webchikuma.jp/articles/-/731>

大和田俊之「ブルーノ・マーズとポストコロニアル・ノスタルジア」、2017年6月

9日、<http://www.webchikuma.jp/articles/-/650>

大和田俊之「テイラー・スウィフトとカントリー・ポップの政治学」、2017年5月

9日、<http://www.webchikuma.jp/articles/-/606>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。